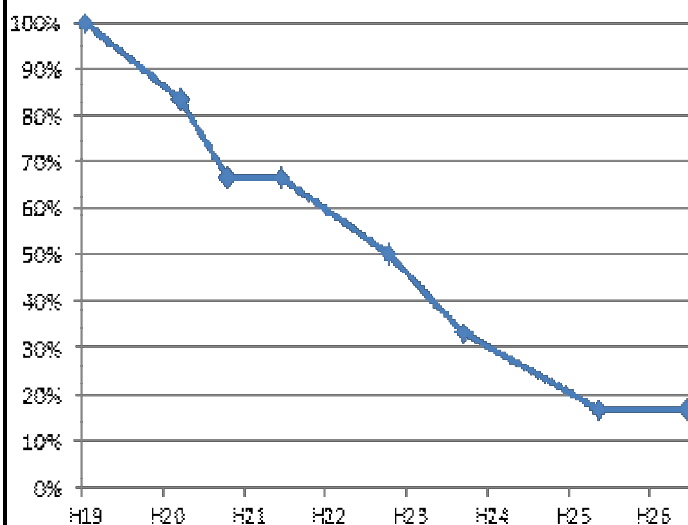


樹種名	バクチノキ（別名：ピランジュ）	
科 目	バラ科	
学 名	<i>Prunus zippeliana</i>	
分 布	静岡県以西の本州、四国、九州、沖縄、国外では、中国、台湾、ベトナムに分布している。	
樹木特性	陽樹であり、乾燥あるいは低温に弱い。 樹皮の表面は黒灰色であるが、成木になるに従い半分ぐらいが剥落して、中の赤茶色の樹皮が見え、その後、樹皮が鱗片状にはがれ落ち、その跡が紅黄色のまだら紋様となる。	
用 途	葉から「ばくち水」と呼ばれる液をとり、沈咳・沈静の薬として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	6 本／0.002ha (3,000 本／ha)	
特 徴	【樹形】 常緑高木で、樹高は 20m 程度、胸高直径は 50 cmになる。 樹皮は灰白色で絶えず古い樹皮が長さ数 10 cm程度のうろこ状に剥がれ落ち、黄赤色の幹肌を現す。 葉は、10~20cm の長楕円形で深緑色。両面とも無毛で、裏面はくすんだ淡い緑色で、葉の縁は裏面側に曲がり込み、鋭い鋸歯の先端は腺体となっており、縁には鋭鋸歯があり、葉柄の上部に一对の腺がある。 花は秋に咲き、径 6mm の白色の五弁花を葉腋に出る短い花穂に密につける。 果実は黒紫色。翌年初夏に成熟する。	
試験地での様子	山引き苗により 6 本を植栽したが、植栽直後から原因不明により枯死し続け、現在では 1 本が現存している。	 
被 害	特になし	

バクチノキ 現存率



【現存率】

平成 26 年に毎木調査をした結果、1 本が現存している。

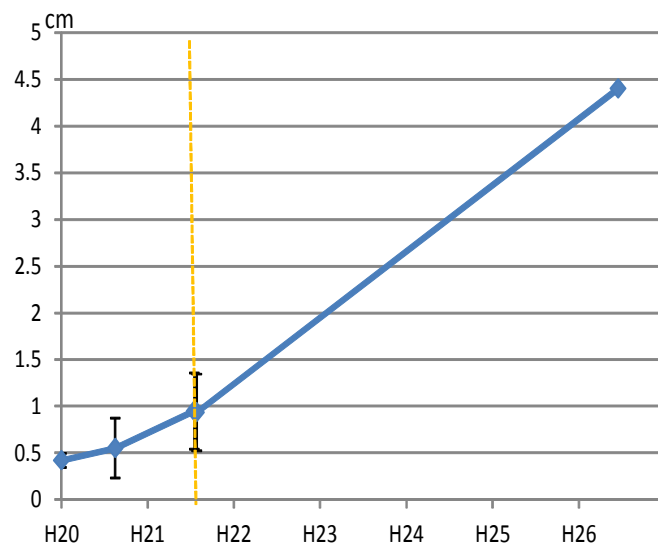


【根元・胸高直径】

平成 26 年に毎木調査をした結果、胸高直径は 1.40 cm であり、成長スピードは遅いが順調に成長している。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

バクチノキ 根元・胸高直径

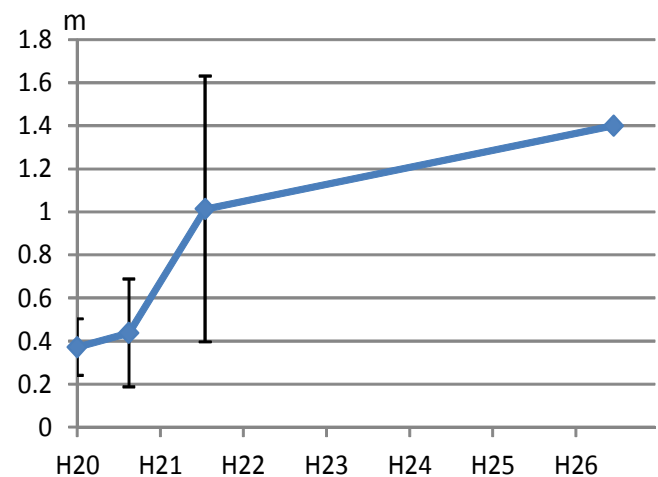


【樹 高】

平成 26 年に毎木調査をした結果、樹高は、2.26m であり、成長スピードは遅いが順調に成長している。



バクチノキ 樹高



《プチ情報》

名前の由来は、樹皮が鱗片となって大きくはげ落ち、そのあと幹肌(はだ)が赤黄色になるの様を、博打(ばくち)で負け着物までを剥がされたことになたとえられ、この名が付いた。

